

平成30年度 東京都立白鷗高等学校及び附属中学校経営計画

校長 善本 久子

I 目指す学校

『伝統からグローバルな未来へ』

【本校の育成するリーダー像】

自己のアイデンティティーを有し、個々の能力を最大限に発揮して課題解決を図るとともに、多様性の尊重を基盤に、国際的な「競争」と「協働」の両方ができる人材

本校創立以来の高い知性と豊かな教養を身に付ける教育の成果を継承し発展させるとともに、先見性をもって時代や社会の変化に対応した学校経営を推進する。特に都立初の併設型中高一貫教育校として以下のよ
うな学校をつくる。

- (1) 併設型中高一貫教育校として、都立白鷗高等学校の歴史と伝統を生かしつつ、附属中学校から**6年間の系
統的な教育**により、生徒の個性・能力を伸長し**自己実現を図る学校**。
- (2) 創造性豊かで開拓精神に富んだ人格の涵養を目指し、**未来社会のリーダー**となる人材を育成する学校。
- (3) ダイバーシティ（多様性）を尊重し、日本の伝統・文化や異文化への理解を深め、**国際社会に貢献する
有為な人材**を育成する学校。
- (4) **地域に根ざし、開かれた学校**として、学校教育活動の公開、地域との連携、交流を積極的に行う学校。

II 中期的な目標と方策

- (1) 附属中学校が中高一貫教育の理念を生かし、かつ併設型の特性を効果的に活用するとともに、高等学校
での教育活動をさらに充実させて双方が有機的につながり、生徒が充実した学校生活を送れるような安定
した学校運営ができる学校組織を構築する。
- (2) 生徒の適性に応じたきめ細かい学習指導を行い、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）
を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。また「高大接続改革」による新テスト実施に向
けた教育課程の改革、指導方法の改善等を検討する。同時に3年間及び6年間を通して生徒の在り方生き
方等を考えさせるキャリア教育の充実を図る。特に中高一貫教育校として生徒の進路実現に向けた進路部
主導の全校的な取り組みを実施する。
- (3) 「都立高校改革推進計画・新実施計画」のグローバル人材育成に係る事業が平成30年度に本格的にスタ
ートすることから、組織を挙げてその理念を共有し、ミッション達成に取り組む。
- (4) 本校の地域特性を生かし、日本の伝統・文化について系統的に学び、「上野・浅草」を基軸にした日本文
化・産業等の研究を行う（上野・浅草学）
- (5) 生徒が安心して学ぶことのできる教育環境を整備し、体罰を絶対許さないとの強い姿勢で臨むとともに、
いじめや生命にかかわる事故の未然防止、早期発見、早期対応に学校全体で取り組む。
- (6) 地域の教育資源の活用、地域行事への生徒の積極的参加、学校運営連絡協議会等相互意見交換の機会
の活用、施設開放事業などを通して地域に信頼され支援される学校づくりに努める。
- (7) オリンピック・パラリンピック教育を推進し、2020年の東京大会に向け、理念を学び、国際理解や
スポーツへの興味・関心を高める。

Ⅲ 今年度の取り組み目標

教育活動の目標と方策

アイデンティティーの確立とダイバーシティ（多様性）尊重を基盤に、世界で「競争」と「協働」の両方ができるリーダーの育成を目指し、生徒の学力の伸長と進路実現を図る取組を学校一体となって実践する。

① 学校運営

中高一体化した組織的運営を目指す。そのため、学年中心主義を改め、情報を共有し、各分掌・学年が明確な目標を掲げ、検証を実施し、次年度に継承していく体制を確立する。また、教育公務員としての意識を常にもち、個人情報の適正な管理や体罰などの服務事故を起こさない環境を整える。

「都立高校改革推進計画・新実施計画」が今年度から本格的にスタートすることから、組織を挙げてその理念を共有・発信し、新しい「白鷗」のブランドイメージを確立する。テレビ会議システムを活用し、情報の共有を一層推進するとともに、働き方改革により、教職員のライフ・ワーク・バランス環境を整備する。

① 学習指導

生徒個々の学力を最大限に伸ばすため、規律ある授業、落ち着いた学習環境を整備する。学習習慣の定着を図り、その状況について定期的な検証を実施するとともに、校内研修の充実を図り、質の高い授業を維持する。主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を推進し、総合的な学習の時間を改善し、新時代に求められる学力の向上を図る。国公立及び難関私大への合格が実現できる学力を身に付けさせる。そのために、教員相互の授業見学を通して、教科指導力を高める。また、英語教育推進校として、生徒の英語力の一層の向上を図るとともに、外部機関との連携やコンクール参加等により、理数教育の充実を図る。

② 進路指導

生徒が確固たる職業観、勤労観をもち、最適な進路を実現させるための6年間を通したキャリア教育を策定し、充実した進路指導を行う。生徒の進路実現に向けて、学校の総力を挙げて個々の生徒の希望に的確に対応した指導を行う。中学・高校ともに卒業生、外部講師を積極的に活用し、講演会等により生徒の学習意欲、進路意識の喚起を図る。「チーム難関」により、難関国立大にチャレンジする生徒を支援する。

また、「高大接続改革」による新テストに向けた教育課程の改善を行い、新規に導入する電子ポートフォリオシステムを活用し、生徒の学びの活性化を図る。

③ 生活指導

安全で規律ある学校生活を生徒が主体的に保持しようとする意識、態度を身につけることを目指す。全教職員で共通した生活指導への認識をもち、いじめや暴力の根絶を目指し、組織的できめの細かい指導ができるよう指導方法を工夫する。また生命尊重の教育を一層推進し、生徒の生命にかかわる事故を未然に防止する。中高一貫教育校としての特徴を生かした特別活動を通してリーダー育成の視点をもち、豊かな人間性を育む生活指導を展開する。これらの取り組みを通して、生徒に成就感を持たせ、本校への帰属意識を高める。

④ 募集広報

中学入学生と融合し共に切磋琢磨できる高校入学生、6年間の中高一貫教育を理解し学習意欲のある中学入学生を確保するため組織的な募集・広報活動の全面的な改善を図る。特に、高等学校の志願倍率の向上をめざし、ホームページの改善や学校説明会の増加等、効果的な広報活動を、組織を挙げて実施する。

⑤ 健康推進

生徒の基礎体力の向上を図るとともに、スクールカウンセラーとの面談等を通して心と体の健康づくりを組織的、計画的に推進する。生徒の生活実態を調査し、それを学校生活に反映させる。また、特別支援教育の推進および食育の充実に努める。

⑥ 情報活用

情報処理能力を高めるとともに、情報を適切に活用する能力の育成を目指し、学習指導及び校務へのICT機器の積極的活用を図る。

⑦ 国際理解教育

日本の伝統・文化の理解を通して世界の文化を知り、海外修学旅行や短期語学留学、次世代リーダー育成事業、さらには学校交流を通して広く海外に目を向け国際社会に貢献できる社会性を育成することを目指す。オリンピック・パラリンピック精神を学び、国際感覚を身に付けさせる。

⑧ 地域連携

開かれた学校づくりを推進し地域、保護者から信頼される学校づくりを目指す。

総合的な学習の時間における地域研究のあり方を検討する。

⑨ 経営企画室

自律経営推進予算の適正な予算計画及び効果的な執行に努める。また、教員と経営企画室との連携強化を図るとともに、学校運営への経営参画の充実を図る。

IV 今年度の重点的取組と数値目標

項目		内 容	取組 達成時期
① 学校 運営	ア	中高一貫教育校の検証結果を踏まえた教育活動の継承と、都立高校改革推進計画 新実施計画による改革案を策定する。	3月
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証を実施する。	3月
	ウ	学年中心主義を改め、各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制を構築する。	3月
	エ	募集・広報活動の充実を図るとともに、円滑な入学選抜等の実施に向けた経営企画室と連携強化する。	2月
	オ	全教諭が年間3回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。	3月
② 学習 指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	9月 1月
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進度の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	2月
	ウ	小テスト等の実施により、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	3月
	エ	チューターの有効活用と自習室の充実を図る。	3月
	オ	学習習慣の定着化を図るために自宅学習時間の確保を図る。	2月
	カ	英語、漢字、数学などの各種検定に対する年間実施計画を策定する。	3月
	キ	外部機関との連携やコンクール参加等により、理数教育の充実を図る。	3月
	ク	英語教育推進指定校としての英語教育の一層の充実を図る。 中学校・・・卒業までに英検準2級9割取得 高1・・・GTEC平均 530点レベル以上 高2・・・GTEC平均 570点レベル以上	3月
ケ	外部セミナー等を活用し各教員の学習指導力の向上とともに、教員相互の授業見学を年間3回以上実施し、学習指導力の向上を図る。	3月	
③ 進路 指導	ア	5教科による勉強合宿を夏季休業日中に実施し、学力の伸長とともに、大学受験に向けた意識の啓発を図る。	8月
	イ	高校生に関しては自己の学力把握のための実力テストと模擬試験を計画的に実施する。また、中学生に対しては学力推移調査を実施し、学力の定着を図り、その後の指導に繋げる。	3月
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者高校延べ7,000人以上。中学延べ3,500人以上。	1月
	エ	国公立大学合格50名以上。	3月
	オ	難関国立4大学合格者8名以上。	3月
	カ	難関私大合格90名以上。	3月
	キ	GMARCH合格150名以上。	3月
	ク	卒業生を含む学年検討会・センター検討会等を4回以上実施し、生徒一人一人に応じた指導内容の共有化を図り、現役合格率85%を確保。	3月
④ 生活 指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等の基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	3月
	イ	行事の充実とともに、実施後の検証を通して工夫・改善を図る。特に白鷗祭(文化祭)について企画内容などの改革を行う。	2月
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	3月
	エ	部活動の活性化を図り、中学・高校とともに、都大会等以上の大会出場に3団体以上を目指す。	3月
	オ	年間皆勤者数、学年平均60名以上。	3月
	カ	いじめの実態把握アンケートを3回行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。	3月

⑤ 募集 広報	ア	校外における説明会や学習塾等への訪問15回以上。	1月
	イ	中学校説明会参加者 10,000名以上。	1月
	ウ	中学校入試倍率 6倍以上。	3月
	エ	高校説明会参加者 2,000名以上。	1月
	オ	高校入試倍率 1.7倍以上。	3月
	カ	ホームページの充実を図り100回以上の更新を行う。	3月
⑥ 健康 推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会や生徒理解研修会を実施する。	2月
	イ	スクールカウンセラーによる学年全員面接及び個別指導の充実を図る。	3月
	ウ	健康推進のための講演会を実施する。	3月
⑦ 情報 活用	ア	ICT機器を使った授業を推進する。	3月
	イ	ICT機器を活用した教職員の情報共有化を促進する。	3月
⑧ 国際理 解教育	ア	平成30年度に向けて中学生の海外研修旅行の新設等、海外交流事業の活性化を企画する。	2月
	イ	国際社会で活躍する人材を育成するために次世代リーダー育成事業等を活用し留学の推進を図る。	3月
	ウ	姉妹校提携校との交流内容の充実、積極的な留学生の受け入れを行う。	1月
	エ	日本の伝統と文化理解教育を地域研究に発展させる方策を検討する。	3月
	オ	オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。	3月
⑨ 経営 企画室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画を策定する。	3月
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図り、経営参画の充実を図る。	3月

主な目標項目と数値目標

項目	目標	対象	28年度実績	29年度実績	30年度目標
①	自宅学習時間	中学生	1時間48分	1時間21分	2時間
		高校生	2時間30分	2時間21分	2時間30分
②	進路決定	国公立大・私立難関大 (早・慶・上・理)	国公立47名 難関私大81名	国公立59名 難関私大111名	国公立50名 難関私大90名
		合格者数	GMARCH153名	GMARCH 148名	GMARCH150名
		難関国公立大学合格者	5名	13名	8名
③	夏期講習 参加者	中学生	延べ3,453名	延べ3,612名	延べ3,500名
		高校生	延べ7,090名	延べ7,640名	延べ7,000名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	平均59.3名 (1~6年)	学年平均52名	平均60名 (1~6年)
⑤	説明会等 参加者	中学校	10,115名	11,032名	10,000名
		高校	1,950名	1,766名	2,000名
⑥	一般入選倍率	中学校	6.57倍	7.37倍	6倍
		高校	1.61倍	1.50倍	1.7倍
⑦	英語力向上	中学校	英検準2級以上 9割	英検準2級以上 91% (中2で80%)	英検準2級以上 9割
		高校	高1 GTEC 平均 520.7 高2 平均 568.7	高1 GTEC 平均 538.6 高2 GTEC 平均 558.8	高1 GTEC 平均 530 高2 平均 570